

懐かしいコーン型 3 ウエイ・スピーカが ショパン を奏でる



老舗 コーヒー専門店
神田 ショパン

昭和8年の創業の老舗コーヒー専門店「ショパン」である。丁度、創業75年ということになるが、この場所に移転してから25年以上は経過している。今では、かつての客の雰囲気はないが、出てくるショパンのピアノの音やコーヒーの濃さは変わっていない。座ってしばらくして、煙草に火をつけると、30年前の記憶がよみがえり、つい苦笑することがある。あの先輩は、亡くなってしまったが、その「後輩を育てる気持ち」は、この木彫りの灰皿に染み込んでいて、今にもコン、コンとパイプから灰を落とす音が聞こえてきそうだ。一緒に横断歩道を渡ったときの話(雑誌の行く末を心配していた)。スタッフ全員の前で、出来上がったばかりの見本誌を見ながら、その編集方針や、構成、表現方法、写真、キャプションに至まで、徹底して怒られた事。特別難しい事を要求するわけではない、ちょっと考えて手間を惜しまなければよいことばかりだった。そして、今の自分よりも、少しでも優れたものを作る、その熱意とこだわりを教えてもらった。「幾つになっても、そんな、気持ちを忘れないようにしよう。」・・・と、今回は、私的な話に終始してしまっただが、濃いコーヒーがお好きな方は、蕎麦屋の帰りにくつろいでみて欲しい。



懐かしい木彫りの灰皿。変わらない小物達に、ふと昔を思い出します。



美しさの中にも怪しい光を放つステンドグラス、コーン型 3 ウエイ・スピーカから出るクラシックな音、濃いコーヒー、やはり独特の世界だ。



都営地下鉄 新宿線の小川町駅または、都営地下鉄 丸の内線淡路町駅で下車A3出口を登り、淡路町交差点から「まつや」の手前を左に入り、数蕎麦の右右側にある。